

富士見の景観

「厚葉木、艶葉木、藪椿」



池袋の武藤さんのお宅の庭先に大きなヤブツバキの木がある。庭先の段下にある田の側に、武藤家の初代忠右エ門が植えた。樹齢はおよそ200年。二つに分かれた大きな幹は、それぞれの幹の目通りが136cm。高さは6mほどで剪定されているが、現在の根元の庭先は3mほど埋められて上がっている。想定した樹高は9mほどになるだろう。沢山の枝を広げこんもりとして樹勢も強い。4月の初めの頃には花で覆われ、4月いっぱい楽しむことができる。10月頃、実が熟して種子が落ちる。咲き終わった花や落ちた実の片付けは、家人の季節仕事となっている。

ヤブツバキが、標高900mにおよぶ高冷地でこのように大樹に育っているのは、珍しく貴重であったため、この樹は昭和42年に天然記念物の指定を受けている。



枝先に花をつけ、実をつける。
果実の皮は厚く実も硬いが軽量。

ツバキ【椿:Camellia japonica】ツバキ科ツバキ属。日本原産の常緑樹。野生種の標準和名はヤブツバキ。ヤブツバキは東北以西の暖地に育成し、花期は冬から春、1月下旬から5月上旬にかけて咲きます。早咲きものは、冬のさなかに咲きます。「花椿」は春の季語で、「寒椿」「冬椿」は冬の季語。「つばき」の読み方の由来には諸説があり、「光沢がある」の意の古語「艶葉木(つやはき)(葉は濃い緑色、光沢でピカピカ)」、葉に厚みがあるという意味の「厚葉木(あつばき)」、強い葉っぱの木という意味の「強葉木」、落ちた花が刀の鏢(つば)に似ており「鏢木(つばき)」の名、朝鮮名の「冬柏(つくばく)」の名から、などがあります。現在はふつつ「椿」の字で知られていますが、この字は日本で作られた字で、「春に花咲く」の意とされています。

ツバキとサザンカはよく似ています。原種は見分けやすいようですが、園芸品種としては多様性に富むため、わかりにくい場合があるようです。

問 富士見町役場 建設課 都市計画管理係 ☎ 0262-9216

- ◆町の人口と世帯数 平成24年3月1日現在(前月比)
住民基本台帳人口 男性/7,517人(-21) 女性/7,737人(-10) 合計/15,254人(-31) 世帯/5,687世帯(-30)
- ◆発行日 平成24年4月1日
- ◆編集・発行 富士見町役場 総務課 〒399-0292 長野県諏訪郡富士見町落合10,777 TEL0266-62-2250(代) FAX0266-62-4481
- ◆ホームページ <http://www.town.fujimi.nagano.jp> Eメール fujimi@town.fujimi.nagano.jp ◆印刷 (有)富士見印刷